

母校天理大学への提言（その四） —母校における入学定員の確保に向けて—

平成 27 年 10 月 24 日
天理大学ふるさと会
会 長 吉川萬太郎

はじめに

創立 90 周年を迎えた母校天理大学では、4 月 23 日の記念式典を皮切りに多彩な記念行事をとおして、「建学の精神」に立脚した人材育成に取り組まれていることに敬意を表します。私たち「天理大学ふるさと会」（以下：ふるさと会）の主催による「天理大学創設者中山正善生誕 110 年記念シンポジウム」（共催：天理大学）において、次なる 100 周年に向けての展望を確認し、力強い決意を共有できましたことを、心から喜んでおります。

しかしその一方で、母校では入学定員 770 名に対して 751 名（2014 年度）、723 名（2015 年度）と二年続けて定員充足に至らない状況であります。「ふるさと会」としては、この状況を母校の発展のうえできわめて重大なことと受けとめ、平成 27 年度「地区別支部長会議」での意見や要望をふまえて、今回は「母校における入学定員の確保に向けて」という標題のもとに、母校への「提言」をさせていただきます。

母校の入学者選抜状況について

日本私立学校振興・共済事業団の「平成 26（2014）年度私立大学、短期大学入学志願動向」によれば、定員充足率 100%未滿の大学が集計校 578 校の 45・8%にあたる 265 校もありました。翌 2015 年度の定員割れは 28%に下降したとはいえ、入学者数は全体で 6,326 人の減少を示し、私立大学における入学定員の確保がますますきびしくなることには何ら変わりがありません。

また奈良県内の「2014 年度学校基本調査結果」でも、県内の中学校在學生は平成 16 年（42,883 人）に対し、10 年後の平成 26 年（40,352 人）では 2,531 人の減少を示し、高等学校在學生は平成 16 年（41,654 人）に対し、平成 26 年（37,537 人）では 4,117 人の減少を示しています。

このように全国における大学進学率の上位（全国平均 53・2%に対し、奈良県は 57・8%）である奈良県ですら、少子化にともなう入学者確保のきびしさは同様であります。

ちなみに母校天理大学の 2015 年度の入学者数を学科専攻ごとを一覧すれば、次のようになります（入学者数／募集人員）。

人間学部：宗教学科 28／40 臨床心理専攻 32／30 生涯教育専攻 19／20
社会福祉専攻 29／30

人間学部：108／120（－12）

文学部：国文学国語学科 34／40 歴史学専攻 21／25 考古学・民俗学専攻 19／25

文学部：74／90（－16）

国際学部：英米語専攻 58／70 中国語専攻 17／30 韓国・朝鮮語専攻 31／30

日本語専攻 12／15 スペイン語・ブラジルポルトガル語 23／35

地域文化学科 189／180

国際学部：330／360（－30）

体育学部：体育学科 212／200

この母校の入学者数からも明らかなことですが、796名（2010年度）、820名（2011年度）、850名（2012年度）、807名（2013年度）、751名（2014年度）、723名（2015年度）という過去六年間の入学者数の推移や最近三年の平均充足率99%という傾向を前提にすれば、決して楽観できる状況ではないといえます。

さらに入学定員を充足するうえで何よりの要訣ともいえるべき志願者が、2,205（2011年度）、2,183（2012年度）、2,058（2013年度）、1,838（2014年度）、1,828（2015年度）というように減少傾向にあることも黙座黙視できないことであると考えております。過去三年（2013年度～2015年度）の志願者数／入学者数の比率（平均40%）からも、やはり安定した志願者数が望ましいことはいまでもありません。

こうした母校の入学者選抜の状況を真摯に受けとめ、「ふるさと会」としても微力ながら「一手一つ」の思いに立って、いくつかの提案や要望を述べさせていただきます。

- ① 志願者の出身高校地域別の状況によれば、2014年度の近畿地方の志願者数1,371は全志願者数の約75%（とくに奈良と大阪だけで近畿地方の約75%、全体の約55%）、2015年度の近畿地方の志願者数1,349は全志願者数の約74%（奈良と大阪で近畿地方の約73%、全体の約54%）になります。

この志願者動向をふまえて、試験会場、入試説明会、高大連携などの入学者選抜方法に関して、近畿地方の志願者に特化した対策をご検討ください。

- ② その一方で、2015年度は北海道地方の志願者数10、東北地方の志願者数14で合計24（全志願者数の1.3%）であり、過去三年間の北海道・東北地方の志願者出身高校は51校（大阪府168校の約30%）という状況です。北海道や東北での入試説明会・相談会も実施されていない現状の見直しも含めて、志願者の増加につながるような対策の強化をご検討ください。

- ③ 「提言」（その二）の「附言5」で、「学生の導入教育から完成教育までの学習意欲とその成果を分析するために、入学後の入試種別ごとの追跡調査をデータ化されることを提案します。」ということについて、学生の「学びの実態調査」として再提案いたします。

- ④ 現行の「天理大学における学生の受け入れ」の方策が必ずしも万全万能であるとは考えられません。たとえば、推薦入学の「学校推薦型」、特別入学の「天理

アスリート選抜」「社会人選抜」などの見直しや、転学部・転学科および秋学期の入学、春学期末の卒業の導入などを含めた「入学者選抜方法」の全面的な再点検を求めます。

- ⑤ その「入学者選抜方法」の再点検を効率化し、「学生の受け入れ」に対する取り組みを強力に推進するためにも、現行の「入試委員会」「入試広報部」の機能がより充実するように改善を求めます。

結びにかえて

天理大学の創設者の理念は、卒業生も在學生もわけへだてなく「ふるさと会」のもとに結集し、海外飛躍をめざす人材を育成することにあります。そうした創設者の理念のもとに、「ふるさと会」では在學生を「会友」として位置づけ、「会友」に対するさまざまな支援を続けてきました。いわば母校天理大学を志願し、入学をめざす人たちは、私たち「ふるさと会」にとっては「会友」となるべき大切な人材であると考えています。

今年度も「ふるさと会地区別支部長会議」を開催しましたが、飯降学長、大橋副学長、澤井副学長には、ご多用のなかご臨席のうえ母校の最新情報を詳しくお伝えいただき、あらためて感謝申し上げます。もとより各地区によって受け止め方は一様ではありませんが、来たる 100 周年の母校の発展に寄せる期待と熱意に変わりのないことを実感いたしました。

ご承知のように、「ふるさと会」では国の内外を問わず、各方面各分野において多彩で有能な人材を輩出しております。その意味においても、入試広報活動にかぎらず、「入学定員の確保」に向けた取り組みに、「ふるさと会」のネットワークとその人材をいささかでも活用いただければ幸いです。「ふるさと会」としては、母校が魅力ある個性輝く大学としてますます飛躍するために、能うかぎりの協力をしたいと考えています。

以上

【付記】

今回の提言は、「入学定員の確保」のみに留めましたが、かねてより母校の構成員である教員、職員、在學生、卒業生が、「建学の精神」に基づく天理大学の理念と教育目標を、創設者の思いの結晶体として明確に理解し、正當に継承していくために、揺るぎない道標となる、天理教の教義を根幹とした『天理大学憲章』（大学綱領）の策定を提言してきましたが、その構想を具体化しなければならないと考えております。

なお今回の提言をまとめるにあたり、天理大学入試広報部入試課から貴重な資料やデータをご提供いただきました。厚くお礼を申し上げます。